

全通せる佐賀線

沿線名所

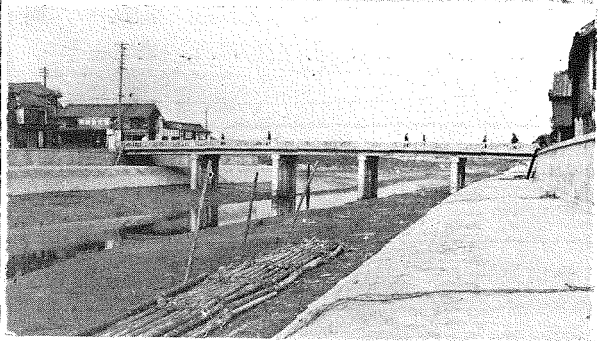
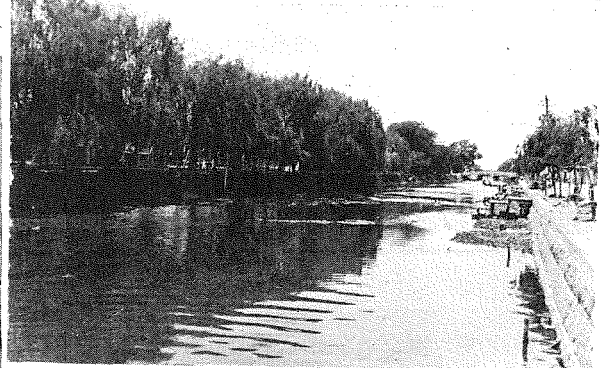
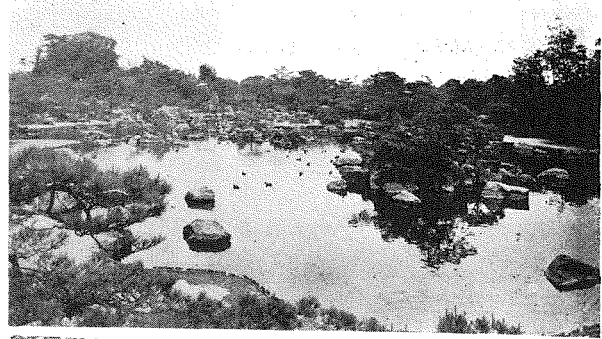
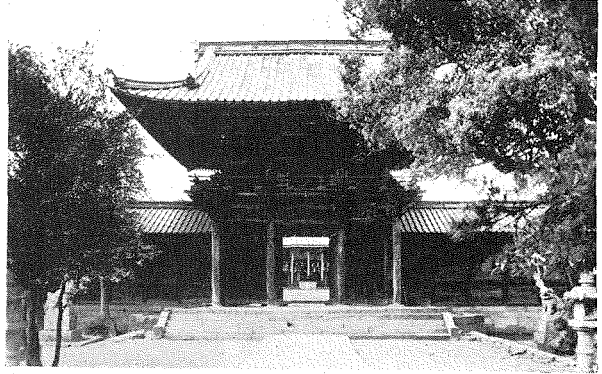
(1)下は清水の觀世音・矢部川驛より約4軒、大同元年慈覺大師の開基にかゝる天台宗の巨刹にして本坊の庭園は昭和四年文部省より名勝として指定された。参拜者多く年に10萬人を下らずと云ふ。附近一帯は高燥眺望よく櫻の名所として有名で、近邊に横穴式古墳がある。

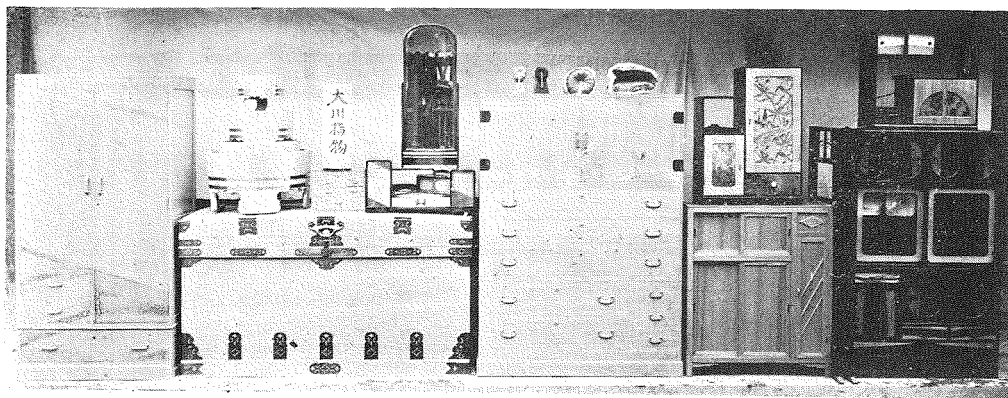
(2)上は三柱神社・筑後柳河驛より約1軒(00米、柳河藩祖戸次直雪公と立花宗茂公及同夫人門千代姫の三柱を祀る縣社で文政九年藩主立花鑑賢公の建造に係る。社殿樓門の結構は地方稀に見る壯麗である。

(3)次は名苑として開えた立花伯爵邸の庭園、筑後柳河驛より約2軒90米、四季各種の花が咲き樹木が茂り、泉池には常に野鴨が群飛して来る。

(4)は水郷柳河風景。

(5)下は沖の端川・柳河川の橋附近。





(6)上は大川指物・むかし武士階級の内職として藩主の指導奨励に濫觴し現在指物同業組合員戸数700餘、従業員3,500餘に及び、年産額200萬圓を突破してゐる。

(7)次は風浪神社・筑後大川驛より約1軒900米、祭神は彦津、中津、表津の三少童命(わだつみのみこと)で、左に住吉大神、神功皇后、右に高良明神を配祀する縣社である。むかし神功皇后征韓凱旋の砌り海神に祈り風浪の難を免れ給ひしより此地に宮殿を建立し風浪宮と稱せられ、爾來海難守護の神として尊崇されてゐる。社殿は慶長六年田中吉政の再建に係り拜殿は萬治三年有馬忠頼の再築したもので、明治四十三年伊勢神宮式年御造營古材を拜殿し半額の國庫補助を得て改造せられた(寫眞)尙本殿は明治三十九年特別保護建造物として指定せられ鎌倉末期の簡素な豪族風の餘風を留めてゐる。



(8)佐賀城趾・佐賀驛より約1軒、龜甲城又は榮城とも稱され、佐賀藩主鍋島家の居城である。城の周圍一里に及ぶ濠を繞らし筑紫平野の中央に五層樓の天守閣高く聳え雄藩の勢威を誇つてゐたが明治七年佐賀の亂に本丸の一部を残し悉く焼失し現在は僅かに彈痕點々たる牙城の一部鯨門が残り往昔を偲ばせてゐる。幕末佐賀藩の名君閑叟公の書院が現存してゐる。



(9)下 佐嘉神社・佐賀驛より約50米、藩主鍋島直正(閑叟公)御一座を祀る別格官幣社で、昭和八年九月約30萬圓の工費で新社殿の造營が竣成した。境内に閑叟公の銅像及び郷土資料を蒐集した徴古館がある。

